

令和4年度 第1回 野洲市男女共同参画審議会 議事録要録

●日 時

令和4年8月9日（火）13：30～14：40

●場 所

野洲市人権センター2階 交流研修室

●出席委員（委員区分毎・50音順）

1号委員：田中 ふじ江委員、馬淵 眞壽美委員

2号委員：新庄 寛子委員、鈴木 あつ子委員、中谷 征史委員、堀江 さや美委員、森地 貞光委員

●欠席委員（委員区分毎・50音順）

1号委員：藤池 弘委員

2号委員：邊見 恵一郎委員、水上 恒宣委員

4号委員：加藤 庸子委員

●野洲市男女共同参画推進本部

栢木本部長、西村副本部長

遠藤議会事務局長

●事務局

川端総務部長、山本人権施策推進課長

小松人権施策推進課長補佐、山藤人権施策推進課主査

●傍 聴 者：7人

1. 開会

2. 新委員紹介…森地 貞光委員自己紹介

3. 男女共同参画審議会会長あいさつ

4. 男女共同参画推進本部長（市長）あいさつ

5. 議題

（1）第4次野洲市男女共同参画行動計画に基づく令和3年度事業実績について資料1

—事務局より資料説明—

◇委員からの主な意見・質問

【委員】私は、農業経営者協議会からきているが、地域自治会の評議員、地元に根付いた農業をずっとやっていて、いろいろかかわらせてもらっている。去年はなかったが、夏に毎年、人権に関する地域の人権啓発講習会をやっており割と浸透していて、私の地域では、男女の共同参画、役員も含めて、男性・女性隔てなく、まんべんなく浸透している。コロナで人権の講習もなかったが、講習にも地域の女性リーダーの方が参加されていて、市で言っていた男女共同参画が浸透していることが、地域に住んでいても実感している。

【委員】前回の審議会の中で、基本目標Ⅱの中で、図書館の特設コーナーの本の利用はどれくらいあるのか質問した。置くだけなら意味がないと思ったが、111冊の利用があったということで、私の想像していた以上の利用があった。置いているだけ、貼っているだけでもいろんな啓発になると感じた。

基本目標Ⅱの最後の方、市立中学校の制服がブレザーに統一された。内面からの啓発と教育、そして、外見から見える両面からというのがよいと思う。生徒や保護者の実際の思いはどうだったか。女生徒がスラックスを選んでいるのか、男子生徒がスカートを選んでいるのか、実際

はどうか。わかったら教えてほしい。

→（副本部長）制服に関しては、1年生がブレザーに変わった。2年生以上は前のままだが、新しいのを着ても良いことにはなっている。今のところ、野洲中学校で1年生の女の子がスラックスをはいているのが10人ぐらいいる。北中と中主中学校も大体5名前後、中主中学校は学年100ちょっと、あとの学校は、150～170ぐらいの人数です。女生徒がスラックスを履くというのはあるが、男性がスカートを履くというのは、残念ながら今はない。保護者の反応ですが、実施前に一度、小学校6年生の保護者も含めて在校生の保護者にアンケートをとった。その時には、中学生はセーラー服とスカートが普通なのではという意見もあったが、時代の流れかなということで、こういう風にされるのは、すばらしいですねという意見がかなり沢山あった。それから、学校ごとにスラックスかスカートを選べるようにしているのは全国いくつかあるが、市内中学がまとめて全部、同じように変えるというのは全国的にほとんどなかった。野洲市が最初かなと思っている。そういう反響もあって、いくつか他県とか、先週も、安曇川高校生徒会長が実態を聞きに来られた。結構反響は大きい。

【委員】 ちょっとずつ、そのように変わり、自分の好きな事を選択できるのはいいことだと思う。

【委員】 女性消防団は、定員に満たない状態。少しでも興味を持ってもらうとありがたい。女性は18人の定員に対し13人ですごく少なくなっている。みなさん、消防団に入ると火を消しに行かないといけなと思われがちで、消防団という名前だけでそのように思われてしまう。こういう女性の資料を見ると、今日も出てわかったが、自治会長に女性がいるのも聞いた。いろんなことが女性にも関わっていると思うので、もっと消防団に入ってほしい。前は、来ていないという項目がちらちら見えていたが、今回、ABばかりで、すごい取り組みをされたと思う。

→（事務局）女性委員の割合については、この後説明しますが、徐々に、少しずつではありますが男女共同参画推進に向けての取り組みが広がってきている。まだまだ不十分なところや課題もたくさんありますが、少しずつ見えるような形でできていると感じている。評価についてはABという評価を各課がつけていますが、気を緩めることなく、評価がさらに上がるように取り組みを進めていきたい。

【委員】 元行政で、男女共同参画の前からの仕事をしていたが、その頃から思うと、随分と男女共同参画が進んできたということを、数字とか、いろんな行動から察していただくことができすごいと思う。そんな中で、私は行政を辞めてから介護の仕事をしているが、少子化・超高齢社会の中で、ご夫婦の中でも子どもが少ないので、自分の親は自分が看ないとあかんという気持ちは随分持たれるようになってきたと思う。実際に介護をしている方も、結婚適齢期は今はなくて、結婚する人もあればしない人もいて、仕事をしながら介護している男性もたくさんいる。基本は若い頃から家庭で、家庭の中は中々見えないので数字には表せないが、家庭内の家事育児も含めて、男女が共にやれるようにこれからもますます啓発をしていってほしい。そうすることによって、男性も介護の大変さから虐待に繋がることがある。今まで女性がやってきたことを男性も普通にできるように、身構えずにできるような男女共同社会になれば、介護が必要になっても安心して、みんなで担っていくと思う。これからも啓発も含めて、見えない家庭内のことも含めてお願いしたい。

→（事務局）家庭内における家庭での意識づくりは、意識調査でも男女の差がでていた。出産準備

教室で、パートナーとして考え、育児に参加してほしい。

【委員】保育園の退職者が多いとされている。子どもは慣れた先生がいい。そのところに力を入れてほしい。

→（事務局）個別の事情は把握していないが、保育現場、行政現場にかかわらず定年に至らず退職した職員がいたと認識している。働き続けやすい職場環境のあり方について継続して取り組む。育児休業制度についても、制度当初より改善が重ねられ、今般、両親が交代で取得できる改正があり、本市も8月議会で条例改正の提案を予定している。

（2）審議会等女性委員参画割合について 資料2

—事務局より資料説明—

【委員】地域の協議委員で防犯の方を担当しているが、こういった審議会にも参加して農業もしており、JA運営委員もしており、いろんな会議に出席するが、防災は圧倒的に男性の方が多いが、ほとんどの審議会は男女半々に近い人たちで、私の個人的な考えでは浸透していると感じている。

【委員】委員0というのは、廃棄物とか空家とかそういうものに対して、女性でも興味のある人となり人ということになると、なかなか難しいかと思う。強制的に押し付ける・すすめるのもどうかと思う。興味のある方は、どんどん参加していただけたらというような形で、数字だけ上げようとはしないでよいのではないか。

【委員】子どもは大学生だが、中学生の制服は意識してなかった。新聞では知っていたが。子どもは男二人で、おしゃれに目覚めていて、眉毛を整えたり、化粧したり時代は変わってきていると実感している。ついこの間、子どもが高校野球の前に、女子の高校野球も観ていたので、女の子が甲子園で高校野球しているんや、日本全体でも広がっていると感じて、男女共同参画の委員をしているので意識して見ていたので、いろんな方面で女性が入れるような世界になってきていると実感している。

6. その他

（事務局）特になし

7. 男女共同参画推進副本部長（教育長）あいさつ

8. 閉会